

自己評価および外部評価結果(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員や入居者様の見える場所にホームの理念を掲げ、共有して笑顔で実施している	母体の社是を基に地域密着型サービスの意義や役割を考え、職員全体で事業所独自の理念を作り上げ共有している。会議の中でも振り返りの機会を持ちながら日々のサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には町内会長に参加して頂き、町内会に入り回覧板等で、地域の情報を共有している。また、散歩の際は、挨拶をしている。	町内会に加入し、散歩や買い物などの折には地域の方々と気軽に挨拶を交わしたり話をしたりしている。また、地元の中学生の社会授業の受け入れも行っており、その機会は利用者の笑顔あふれる生きいきとした表情と明るい会話の弾む時間でもあり、また、地域貢献として町内の草取り等、利用者が出来る範囲での地域貢献もあるなど、地域の方々と積極的な交流を進めてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の職場体験の場として受け入れを行い、認知症の方とのかかわり方などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括や他事業所、家族が参加し、より良いサービスが行えるように情報交換を行っている。	会議では事業所から2ヶ月間毎の状況報告とサービスの実際について報告されている。参加メンバーからの質問、意見、要望を伺うことで日々のサービス提供に活かしている。会議後は職員に対しても積極的に情報提供を図っている。	報告や情報交換のみにとどまらず、メンバーから出された意見をどのように対処したか、また、どのような成果が得られたかについての報告も行い、今後は利用者の参加も得て更なるサービス向上に活かしていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年4回開催しているグループホームの会に市や包括の職員も参加することがあり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	市担当職員、特に包括支援センターとの積極的な連携が構築されており、運営推進会議のみならず折に触れ相談、助言、連絡等がなされ、共通理解を深めている。また、年4回開催されるグループホームの会に市や包括支援センターからの参加もあり、事業所の実情やサービスの取り組み状況を聴いてもらう等、何でも相談できる協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1回行い、身体拘束や不適切ケアをチェックリストにし、毎回職員にチェックしてもらい振り返りや対策をその都度検討し身体拘束しないケアに取り組んでいる。	職員全員が利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識の下、一人ひとりのその日の気分や状態を職員間で共有し、安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。また、身体拘束や不適切ケアのチェックリストを基に、振り返りの機会を持ちながら身体拘束しないケアに取り組んでいる。しかしながら、現状、研修記録の整備に不十分な部分もあるため、研修時の資料や記録整備の準備を進めているところである。	3ヶ月毎に身体拘束委員会を開催し、身体拘束や不適切ケアのチェックリストにて振り返りや対策をその都度検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。研修記録や活用した資料の整備に不十分もあったため、今後は研修資料の備えと共に、全職員の共通理解を図っていくことを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、職員全体に周知している。又、日頃より入居者様一人一人の行動の把握に努め、支援している。	事業所では外部研修、内部研修で学ぶ機会があり、高齢者虐待法に関する理解の浸透や法令遵守に向けた取り組みに力を入れて来ている。職員のストレスが蓄積されないよう管理者は職員の相談事に応じることの出来る関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が日常生活自立支援事業や成年後見制度を理解できるように研修の機会を持ち、必要時に対応できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などの際は時間を掛け納得できるまで、十分な説明を行っている。また、管理者以外でもご家族の不安や疑問等にできるだけ対応できるように研修等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等でご家族から言われたことを日誌等で、職員に周知し、出来る限り対応している。	家族には手紙や面会時、利用者と共に外出する機会を設けるなど、何でも話してもらえる雰囲気づくりに努めている。そこで出てくる意見や要望等は、ミーティングで話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、職員の意見、又は困っていることなど聞き取りを行い、反映させている。	毎月の職員会議には職員が自由に意見を言える雰囲気づくりに努め、自由闊達な意見、要望が発言されるようになっている。そこで聞かれる職員からの提案やアイデア要望の取り上げ等、風通しの良い運営体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のスキルアップのため助成制度を活用できるように働きかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるように研修費の助成などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの会やケアマネ部会などの交流の機会がありネットワーク作りや勉強会などの活動に参加し、サービスの質の向上させる取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様から意見を聞き、困っていることなどに常に耳を傾け、サービス計画を実施している。また、ご本人様が何でも話しやすいように常に笑顔で接するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から意見を聞き、困っていることなどに常に耳を傾け、サービス計画を実施している。また、ご家族様が何でも話しやすいように常に笑顔で接するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様にお話を伺い、必要としているサービスが受けれるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であるご入居者様を尊重し、出来ることはやって頂き、出来ない部分は支えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホームでの様子を伝えるおたよりを発行し、面会時には最近の様子を伝え情報を共有している。通院、外出等出来る範囲でご家族様をお願いしている。	毎月お便りにて利用者の生活の様子や職員との関りを伝え、家族から安心してもらっている。また、行事への案内や参加を呼びかけて、より多くの家族の参加を得る等、家族の思いにも寄り添いながら共に本人を支えていく関係を築いている。また、衣替えの時季の来所や、外出、外泊の協力もあり、家族と過ごす機会を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の馴染みの方も大切にしながらも、ホームでの馴染みの関係も構築している。	どなたでもが気軽に立ち寄れるホームとしての雰囲気づくを心がけ、馴染の友人、知人との面会や友人宅への来訪支援、家族と共に行きつけの商店へ行ったりと、継続的な交流が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しく行えるようご入居者様一人一人の個性を見極める力をつけ、ご入居者様同士が常に楽しく生活を送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要望があれば相談、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活する中で少しでも変化等あった場合はすぐに職員間で話し合い、周知を行い、ご本人様の意向に前向きに取り組んでいる。	家族からの情報やシートを活用し、本人の思いや意向の把握に努めている。日々の会話の中で聞かれる言葉や表情からも思いを汲み取り、本人を主体としたその人らしい暮らしが継続できるよう職員間で共有し、日々のケアに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境、趣味、以前利用していたサービスの把握に努めている。	入居前に本人、家族、担当ケアマネージャーから暮らしの情報を得ながら、これまでの暮らしが継続できるよう把握に努めている。入居後も日常の会話や生活の中で本人が馴染んできた家事や趣味、畑仕事などを活かし、これまでの生活が継続できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活する中で少しでも変化等あった場合は職員間で話し合い、内容を口頭と日誌等に記載し、職員全員に周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス開始前には必ず本人より意向を聞き取り、本人が安心して暮らせるように、また、サービス通り行えているかをモニタリングしている。	居室担当と計画作成者が中心となり見直しを実施されている。モニタリング、カンファレンスについても、本人、家族が来所時や電話で意見、要望を伺い、情報シートの活用と職員の意見や提案を反映させ、情報を共有し現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、特変があった場合には別紙にも記入し、申し送りを行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前より利用していた外部のサービスの継続や一人一人の状態に応じて、皮膚科や歯科往診や理美容等のサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前よりかかっている病院は継続している。敬老会、お正月など地域ボランティアの方たちにきてもらい、一緒に楽しんでいる。地域の祭りでは玄関前、またはホームの中に入まで入って踊りを披露してもらい楽しんで頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかっている病院は出来るだけ継続して頂き、むすびあい手帳を活用し、様子や体調の変化などを伝えている。	利用者、家族が望むかかりつけ医や症状に応じた専門医の受診を支援している。家族の協力も良く利用者は安心して通院されている。受診の際は秋葉区共通の「結び合い手帳」を活用し、医師との連絡や受診記録なども整備されている。歯科医による往診体制も整い、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡帳を作成し情報を共有している。24時間体制で、いつでも助言、指示がもらえる体制があり、緊急時など活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にお見舞いに行き医療関係者など情報を共有している。また、スムーズな受け入れが出来るように相談等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る限り対応している。ご本人、ご家族様のも十分説明を行い、医療行為など必要な場合などは法人内の施設に転居が出来るように法人内で共有が出来る。	事業所は利用契約時に「重度化対応、終末期ケア対応」指針についてを、本人、家族に説明し同意を得ている。終末期については本人、家族とも十分に話し合い、出来る限りの支援を心がけている。緊急時や急変時には本人、家族、協力医療機関、関連施設、看護師との連携を図りながら、要望に沿った支援に取り組む姿勢が感じ取れた。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に本人、家族と話し合い事業所として出来ることを説明している。今後いつ起り得るか分からない重度化や終末期の対応について、職員間で不安のない看取りに向けた研修実施やマニュアルを作成し、共有、理解の取り組みに期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より職員全体に初期対応などの研修や消防署での救命講習を受けている。急変時の連絡先を定期的に確認している。緊急時、電話対応にはアクションマニュアルを見える場所に貼り対応している。	急変や事故発生時マニュアルの整備と共にAEDを設置し、急変時や事故発生時に備え、職員全体で救命救急法についての講習を受講している。緊急時対応としてアクションマニュアルを設置し、即実践に活かされる工夫がなされている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や災害対策についての研修を行っている。事業所内では年2回の避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。	災害時訓練は夜間想定訓練も含め年2回実施している。避難場所や経路の確認、備蓄なども整っている。地域の協力体制については町内会長に相談しながら近隣の協力を得られるよう職員間で話し合っている。	町内の方々とは気軽に挨拶を交し合うなど馴染みの関係はできてきている。今後地域の防災訓練への参加協力と共に、事業所での災害時訓練においても消防署立会いの下近隣住民の参加を得た災害時訓練の構築に期待できる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に基づいてご入居者様の人格を尊重して、さりげない言葉かけを行っている。	職員は事業所の理念に基づいた接遇やプライバシー保護について研修を受け、一人ひとりの人格を尊重し、常に利用者の気持ちを大切に、笑顔で穏やかな声がけを実践し、その人らしさを尊重した支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活をする中で一人一人の思いを探り、希望など聞いてご本人様の思いを出来る限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、一人一人に合った対応をし、自由に過ごして頂いている。体調にも配慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に沿って出張サービスの理美容をご利用されたり、必要があれば一緒に買い物に行き、購入している。服の着替えなどは出来る方にはご自身で選んで頂いている。また、出来ない方には、好みのものを選び、ご本人様に確認して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によって行事食を職員と一緒に作って食べ、雰囲気を楽しんでいる。季節の食材をメニューに取り入れ、毎日の食事の支度や盛り付けなど一緒に行っている。	食材は業者配達となっているが献立メニューは季節の食材を使い、季節感を盛り込んだ利用者好みの食事となっている。リビング内も明るく、利用者個々の力を活かしながら職員と共に食事作りを楽しんでいる。納涼祭行事には家族参加で楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して毎食時の食事量、水分量のチェックを行っている。ご入居者様に応じた、支援をしている。体調の変化にも対応できるようにOS1など用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご入居者様に応じた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様のトイレのタイミングを把握し、失敗しないように支援を行っている。また、気持ちよく行えるように声掛けをしている。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握と利用者の身体能力に応じた適切な介助やさりげない声掛けや見守りを行い誘導している。紙パンツから布パンツに変更するなど、自立に向けた支援と機能低下予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳、野菜ジュースなどを取り入れ、みそ汁には野菜を多く入れ、召し上がって頂いている。また、適度な運動を行って頂いた後に、ゼリーなどを召し上がって頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を決めているが、その都度、体調やご本人様の意向によって、変更したりと柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としているが、個々の希望時間や身体状態に合わせ柔軟に対応している。私物のタオル等の小物にも配慮され、浴室内も明るく清潔感が窺えた。また、身体状況によっては職員2名で介助を行い、安全に入浴できる環境になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにソファーにや和室が設けており、自由に休んで頂いている。日中の活動を促し、夜間の睡眠を気持ちよく出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認でき把握に努めている。また、薬局による居宅療養管理指導により管理されており、変化時や内服方法についても相談できるような環境を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の世話や力量に応じ、生活の中で職員と一緒に食事の手伝いや掃除を行ったり、好きなテレビ番組を見たり、外出したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には出来る限り外に出かけドライブや散歩をしながら、花を見たり、外食などしている。	日常的に車椅子の方も含め外出や散歩などに出かけている。近隣とも馴染みとなり声をかけてもらったり、時には近くの喫茶店に出かけることもある。家族の協力もあり、外出、外泊、特別行事、誕生日など楽しむ機会を設けており生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており、必要時に渡して支払いなどの機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を取り次いだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターを置いたり玄関、ホール・居室等に季節の壁飾りに対応している。ホールではアロマオイルを使用し心と体のリラクゼーションやリフレッシュ効果を促している。	共用空間は明るく、天井は高く開放感があり、季節の飾りつけは利用者と職員が共に行い、落ち着いた心温まる空間となっている。アロマオイルを使用し、心と体のリラクゼーションを上手く生かしている。畳ベースの暖炉が在宅の延長線上の寛ぎ感が心地よく、ゆったりと過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に行き来できるテーブルや椅子、ソファ、畳スペースを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や布団を持ってきて頂いている。家族の写真やお気に入りの小物など置かれている。	本人、家族と相談し馴染みの持ち物は自由である。普段から使い慣れた家具や家族写真、ホームで作った作品など本人好みの装飾がなされ、その人らしく居心地良く過ごせる空間となっている。収納はクローゼットを利用し、居室空間を広く取り安全面の配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内廊下などは常に整理整頓を心掛け、歩行器や車椅子を使用される方が安全に移動できるように工夫をしている。また、トイレにはトイレと分かるように貼り紙を張るなど工夫をしている。		